

基礎台座（台幅二・二、厚〇・一五米）、基礎（高〇・八六、下幅一・六六、上幅一・五二）、台石三段〇・九米、碑石（高一・六二、幅〇・二一〜〇・二七の六角型）全長三・五米の碑である。

### 三〇一 記念碑（サイレン）

所在地 大字上差尾

小学校校舎上の丘に、サイレン建設の碑が建立されている。

基礎石積で（幅一・一八、高〇・七米）、台石二段で、台下（幅一・三五、厚〇・一米）、台上（幅一・〇七、厚〇・三米）の上に、碑石（下幅〇・六九、上幅一・一七、高一・二〇、厚〇・四米）の自然石の碑で、碑正面に、上部に上差尾小学校創立百周年事業公園記念、中央にサイレン建設之碑 昭和五十三年七月 第十分団 とあり。

裏面に、サイレン建設 蘇陽町公園造成碑建設 百周年記念 期成会、功労者 元前分団長七名の氏名、台石に碑建石 昭和五十四年九月 分団長 穴見鉄雄外四十一名  
公園用地提供者 蘇陽町大字塩出迫 宇都宮隆殿 と銘がある。

### 三〇二 記念碑（弘道会）

所在地 大字上差尾

小学校校庭入口左側に、碑が建立されてある。碑石正面に、

弘道会之碑 熊本県知事 寺本

広作書と刻まれてある。基礎石

積で（幅一・一七〜一・三五、

高〇・八米）、台石二段で、台下

（幅一・〇七、厚〇・一五米）、

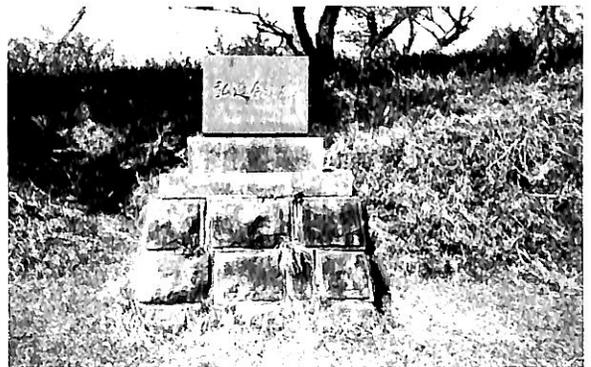
台上（幅〇・八二、厚〇・二六

米）の上に、碑石（幅〇・六五、

高〇・五五、厚〇・二米）

### 碑 文（弘道会由緒）

明治三十七・八年日露戦役後、時ノ上差尾校長羽野了訓先生  
ハ国運ノ衰頹世道人心ノ頹廢ヲ慨歎セラレ 明治三十九年二月  
弘道会ヲ組織サレマシタ。コノ時、興梠市三郎氏、斯ノ美拳ニ  
大イニ賛同サレ寢食ヲ忘レテ会ヘノ勧誘ニ奔走サレ、校下殆ン  
ドガ会員トナリマシタ。明治四十一年十月戌申証書ガ下賜サレ、  
羽野校長ハ詔書ノ才論ヲ弘道会ノ精神トスルコトコソ当今ノ要  
務ト深考サレテ、会ノ強化運営ニ当ラレ、男子ニ夜学殖産ノ道  
ヲ講ゼラレ、女子ニハ質素儉約及勤勉貯蓄ヲ諭サレ、兼ネテ国  
家ノ富ヲ増進シ、忠君愛国ノ国民トナル様指導サレマシタ。爾



来六十有余年、コノ間会ノ重ナル事項ヲ列記スレバ、学校教育ノタメ物心両面ノ絶大ナル援助、多額ノ貯金、滅亡家ニ対スル永代経費、奉納、応召者約八十五名ニ対スル餞別、柏村立忠魂碑ヘノ寄附、事変戦争ヘノ献金、老人慰労会ノ実施、青年団指導、羽野先生表彰、市三郎氏墓碑建立土地五筆購入費、杉松植林、戸主会ノ併合等デアリマス。コノ会ノ数々ノ功績ハ認メラレ昭和四年二月十一日県知事ヨリ表彰ヲウケマシタ。時代ノ変遷ニ伴イ輝カシイ歴史ヲモツ、弘道会モ、昭和四十一年六月二十日上差尾小学校後援会ニ併合スルコトトナリ、ソノ財産関係書類等ヲ引継ギマシタ。コレラノ業績ヲ、永遠ニ遺ス為ココニ記念碑ヲ建立スル。

昭和四十一年八月

建設者 後援会一同

歴代弘道会長

興梶市三郎 藤原虎太郎 興梶又次郎

穴見仙之十 興梶菊太郎 工藤 秀雄

藤原 束 奈須宗三郎 藤原 峯彦

工藤 新一

副会長 会計 穴見 義雄

後援会会長 工藤 久志

の銘が記されてある。

## 五、道 路

三〇三 所在地 大字馬見原（一里木）

町道右側に、山の下・長崎線の道路建設を記念して、昭和四十七年七月に、記念碑が建立されてある。

基礎石積（下巾一・七五、上巾一・〇七、高一・三五米）台

石三段切石（下台巾一・一四、厚〇・一五 中台巾〇・八、

厚〇・二四 上台巾〇・五六、厚〇・三米）碑石自然石（巾〇・

三三、高一・五〇米）全高三・五四米

碑石正面 道路建設記念碑

裏面 昭和四十七年七月建之

本田清隆書

碑 文

（台石上段）

建設趣意書

山の下より一里木

を経て甲長崎に通

ずる道路は、巾員

約二米の急坂道で

農林産物の運送もできない人道であったので昭和二十八年一月

一一五名の沿線住民が長崎土地改良区を設立し、同年十一月よ



り三ヶ年に亘り延長二、八一二米巾員四米の車道を新設し、町村合併と同時に町道に編入されたものである。この道路は、旧馬見原町の産業幹線として建設し、地元はじめ、町内より七、六〇〇名の労力を半ば、奉仕的に提供し、総額六、四一九千円をもつて、完成したものであるが、建設当時、借入れた二〇〇万円、農業振興資金が四十六年をもつて完済し、土地改良区を解散することになったので、建設当時の団結によって、竣工した道路の経過を後進にのこす為ここに全組合員の拠出により記念碑を建立するものである。この道路の利用は、今や全町民のものとなり、地域の利益は勿論、蘇陽町の発展にも大きくつながり、産業開発と観光の躍進を強く祈念してやまないものである。

道路建設費収支概算

総事業費 六、四一九千円

一、内訳 建設費 四、二八七千円

用地費 二〇一〃

資材費 二〇八〃

長期借入金利息 一、五六四〃

工事雑費 一五九〃

二、財源 六、四一九千円

国庫補助金 八三〇千円

長期借入金 二、〇〇〇〃

旧馬見原町補助金 五六〇〃

蘇陽町補助金 四八四〃

組合員負担金 二、二四四〃

受入寄附金 二九四〃

雑収入 七〃

三、長期借入金

二、〇〇〇千円は、十五年に亘り組合員の負担、一部町助成より償還済

道路建設当時の役員

理事長 本田清隆

副理事長 甲斐実

理事 清水松彦、坂本政行、長谷野清

監事 橋野亀雄、菊池篤美

部落委員 藤川荒市、中矢富吉、本田末熊、藤本健十、

甲斐順平、長谷野秀吉、杉本勇、坂本武光、

坂本晃、本田藤美

三〇四 所在地 大字長崎(山口)

服掛松、三叉路右上部に、高さ三・四米の自然石で、道路改

修記念碑が建立  
されてある。大

正十年(一九二

一)十月三十日

の建設で、この

碑は当時の救済

事業として、長



崎から宮崎県五ヶ瀬町桑の内、西とを結ぶべく、現記念碑の地  
点より栗山部落東側、五ヶ瀬川の断崖迄完成、桑の内側も断崖  
対岸迄完成されている。この道路の改修工事を記念して、建立  
されたものである。

三〇五 所在地 大字神の前

面の原東側に農

免農道開通記念碑

が建立されてある。

(碑石・切石高

〇・七五、巾一・

〇六、厚〇・一八

米・台石二段高

二・二五、巾二・〇、厚一・四米)



碑文

本道は、国道二一八号線、県道砥用清和線に接続する町道と  
して、県費及び町費の合同負担により、昭和四十六年度から四  
ヶ年の歳月を費やし、昭和五十年三月開通したものである。

総工事費 一四、三二〇千円

総延長 四、四七二米

計画時町村長 蘇陽町長 片岡正行

清和村長 原田種興

着工時町村長 蘇陽町長 本田清隆

清和村長 平川 亘

開鑿担当 蘇陽町 栗屋 守

清和村 田上正信

舗正担当 蘇陽町 佐渡原 光

清和村 高本直臣

石台寄贈者 田道利房 本田英一

石台に部落関係者二十九名の氏名あり

昭和五十六年三月二十一日建之

三〇六 所在地 大字白石

町道右側に、町道改修記念碑(自然石、高一・二〇、台石三  
段切石〇・七三、台、切石積〇・九五米)が建立されている。

碑文

本町大字白石ヨリ、大字大野ヲ経テ、県道、宮崎ノ熊本線ニ通ズル町道改修コノ延長六四八間ナラビニ、字玉洗ヨリ 前記県道ニ、通ズル別線町道ノ改修此ノ延長二〇三間、右、大正十年三月起工、同十一年三月竣工。

三〇七 所在地 大字方ヶ野

部落道右側(堂前)町道改修記念碑(自然石高一・〇、巾〇・六五、台石一段切石)が建立されてある。

碑文

本道路等、当方ヶ野ヨリ、小峯村ニ通ズル 町道ニシテ、改修延長一二〇間及橋梁一ヶ所改修 起工昭和二年一月、竣工昭和二年五月

元町長 甲斐広保、助役 戸田眞一郎  
町議 後藤正香

工事費 一金五九五円

工事設計区長 後藤政彦

財源左の如し

元区長 片岡甚七郎  
区長 佐藤仙太郎

金二八一円 方ヶ野部落有財産寄附  
金三一四円 方ヶ野部落(寄附)

工事委員外 十名

その内訳 下段の如し

工事経費総額 二、六三七円

関係者 町長 甲斐次郎平

町内五一七戸出夫役寄附一、三三四円

助役 甲斐 次通

寄附金 九六〇円

町議 倉岡 虎彦

白石部落寄附 六四四円

工事委員会計 倉岡芳彦

工事委員 藤嶋寿八郎、立岡 始

筆 山村寛藏

副委員 堀 正俊・坂本熊十・坂本 茂

石工 山下政太郎

外部落員の記名あり

外寄附者関係者氏名あり。

筆 西山満兵衛

石工 記念碑 山下 続

石垣 佐藤弥五郎

三〇八 所在地 大字神の前

部落中央三叉路

右側に、自然石の

町道改修記念碑が

建立されてある。

(基礎 巾〇・七

五、高〇・三八米)

台石二段(下巾

〇・七、高〇・二五 上巾〇・五五、高〇・二七米の切石) 碑

石(高一・〇米)



碑文

本道改修起因、交通ノ利便ヲ謀リ生産力ノ発達ヲ期スル為ノ県道、熊本宮崎線ニ通ズル、本道路ノ改修ヲ企画シ、町会ノ協賛ヲ経テ、大正九年三月起工シ、同十年二月竣工、此延長千百六十三間(二、一一五米)

工事概算

総工事費 一金六、四八九円

工事費総額内一金二、五五一円

馬見原町五一七戸ヨリ

夫役寄附高一戸二付三人宛 一、五五一人分 一、五九

二円・ 大字神のノ前部落財産ヨリ 一九二円

借地代寄附価格見積高並ニ芳名者数十名の氏名がある。

大字神の前区 二十四戸ヨリ 夫役寄附 換算高 金三、

〇三六円 二十七名

本道関係者

元町長 甲斐 広保

助役 戸田真四郎

工事委員 栗屋 常彦

栗屋常三郎

栗屋 金八

不明

碑文 筆者 山村 寛蔵

石工 山下政太郎

三〇九 所在地 大字柳井原

部落中央三叉路に、自然石の道路開通記念碑が建立されてある。碑石自然石で(高一・一七、巾〇・六米) 基礎石積(高一・

三五、上巾一・五一、下巾二・四五米) 台石切石二段(下台巾

一・〇六、高〇・三米 上台巾〇・七四、高〇・三三米)

正面に道路開通記念碑、裏面に大正六年十一月建設とあり、

### 碑文

台石に「馬見原柳井原ヨリ県道、日向往還ニ通スル 理道改修  
延長千二百五十間（二、二七三米）大正二年三月ヨリ着工シ  
同大年四月竣工ス」

工事費金額四、三三八円九八銭

内訳 一、五六〇円 大字柳井原部落財産寄附金五九二円

八十銭 馬見原四九四戸寄附、外四十四名の氏名の銘あるが読みとれない。

元町長 遠藤 伝

現町長 甲斐広保

工事委員 甲斐政通、渡辺藤四郎、渡辺九代八、斗高俊太

郎、佐藤宝作

元区長 渡辺政八、同 甲斐政太郎

現区長 斗高俊太郎

朝日村窪ヶ田

石工 藤原岩太郎 の銘あり。

三二〇 所在地 大字滝上（土戸）

三目谷に学校道路改修記念碑と記された石積高さ〇・九、巾

一・五五米の台座に三段台石〇・八米、碑高一・六七（全高三・

三六米）巾〇・五八米（自然石）の碑が建立されてある。

本町大字滝上字土戸ヨリ大野尋常小学校へ通ズル道路ハ從來一

小野道ニシテ誠ニ風雨降雪ノ除ノ如キハ小学児童ノ通交上困難

危険ヶ所ノミ多カリシ故、欠席ノ不得己次第ナリシヲ以テ、野

道ニ修繕工事ヲ加へ児童通学ノ便ヲ計ルハ教育発達進捗上ノ最

大急務ナル事ヲ主唱シタルモ、字土戸十八戸ノ小部落ニテハ到

底修繕工事費ヲ支フルノ資ニ乏シキ行ナルモ先ヅコレガ設計ヲ

ナサンニハト、明治三十九年八月二十一日ヨリ之レが実測ニ着

手シ延長一、三六九間の設計ニ得タル事ナリシガ、字土戸・同

ハ協力一致シテ以下ノ決議ヲナシ第一町費補助、第二道路添ノ

田一反歩ニ付、金六円、全畑一反歩ニ付、金三円、土戸部落ハ

一戸ニツキ金二十八円十五銭充テノ収入方法ニテ寄附金ヲ募集

シ修繕ヲ加フルコト、予算案ヲ具へ、同年十月廿日本町会ニ稟

請シタリ、本町会ハ修繕工事ノ急務ヲミトメ、万場一致ヲ以テ

可決確定セシコトトテ、字土戸ハ全四十一年九月五日ヨリ修繕

工事ニ着手シ、全四十三年四月十五日ニ至ル、満二ヶ年十ヶ月

ヲ以テ、ソノ工事ヲ終へ、同年五月十三日落成開通式ヲ挙ル

ヲ得タリ、聊カ本道路修繕ノ成立ヲ記念セン為メ爰ニ建碑スル

事トハナシヌ。 明治四十四年五月建之

全長 一、三五九間（二、四七一米）

建設費一、四四二円

寄附金内訳

四四二円 馬見原町 一二〇円 柳井原部落  
 八八円七〇銭 町熊太郎 八一円九〇銭 小陳利七  
 六七円三〇銭 八高政蔵 五六円三〇銭 町利八郎  
 外三〇余名記入有り

町財政上四四二円支出され残金は寄附金に依つて建設されて  
 いる。

建設当時関係者

故人 町長高橋伊八郎 現町長 遠藤 伝  
 常設委員及工事主任 坂本政太郎  
 発起人及会計主任 町 熊平  
 〃 及委員 八高政蔵  
 区長及委員 町 伍平

三一一 所在地 大字菅尾

老人福祉センター入口左側に、碑が建立されてある。碑には  
 菅尾村道路元標、裏面に熊本県、横に大正十五年三月と銘あり  
 (高〇・五七、巾〇・二五米角)。

本道路は、大正十一年より、四ヶ年に亘り施行せられたもの  
 で、施工に当つては、県土木部の直轄工事にて、工事費等は不  
 明なるも、旧村時代の重要第一路線にて、本町産業文化の発展

に大なる役割を果たしてきた。

尚、菅尾より清和村安方に通ずる道路(現在県道清和と高森  
 線の一部)は、昭和二年に施工された。

三一二 所在地 大字塩原(黒原)

部落公民館の右横に、自然石に明治三十九年四月 墜道開鑿  
 工事記念と、昭和四十年 道路改良工事記念の碑が併せ建立さ  
 れてある。

この墜道掘削工事については、次のように当時の方々の御苦  
 労が偲ばれ、それを後世に伝えるべく、黒原観音堂の中に、掘  
 削道誌が記されてある。

穴の口墜道と掘削道誌

黒原村中程と犬淵を結ぶ中間、穴の口道は、現況から想像が  
 つくように、火伏堂跡の岩石が大きく川に突き出していたので、  
 人は川辺に添つて岩原を通るホンの徒歩道であつた。一歩誤れ  
 ば、川に落ち込む危険道で、牛馬は中程の渡瀬を探し、または  
 犬淵堰梁等を往来したのである。増水時には、人は火伏地藏堂  
 を山越し、牛馬は拜所の四叉路に廻つた。それは、人や村が始  
 まつて以来、永い間のことであつた。この危険な不便道をこの  
 まゝ捨ておくものかと一掃すべく奮起されたのが、当時黒原部

落十一戸の先人方であった。明治三十八年春を待たず、正月から休日、祭日を返上、農閑期を有為に利用して工事に専念されたのである。

丁度我が国は、興亡を賭ける日露大戦争のさ中にもかゝわらずよくも決心されたものである。しかも現今のように機械化された時代と雲泥の相違いで、無細工な鶴嘴と鍬、畚で、外には何一つの道具もなかった。而し先人達が人のため、村のため、後世のためと、強い団結と努力の結果、掘削道巾四尺五寸、長さ十五間、墜道高サ五尺、巾四尺五寸、長さ十五間、延長三十三間に及ぶ大工事は、翌三十九年春四月見事貫通完成したのである。執念岩をも貫くことを如実に物語るものである。この時の先人達の昇天の歡びはいかばかりかと、察するに余りあり、手を取り合つて万才万才と天にもとどかんばかり高らかに觀声を続けられた事であろう。

これを記念して墜道口に記念碑を建てらる。今以てここを「穴の口」と呼ぶ。ここで附記すべきは、現在と違い国県町村の補助金、助成金は一切なく、諸経費、夫役すべて地元負担の単独工事である。僅か十一戸の工事としては、想像以上無理な大事業であった。先人方の汗血の苦難察するに、到底文言に表すことを得ず、吾等、今に至るもこの恩恵に浴す。村人よ、先人達の御苦勞を偲び、大事業を讃え、その大遺業に感謝し報恩の念

忘れる事なく、後世に永く伝えるべきであろう。

昭和五十五年（一九八〇） 謹書 満蔵（八十才）

碑石月形の自然石で（下巾〇・四三、巾〇・四〇、厚〇・二〇、高一・五〇米）表面・道路改良、裏面・墜道開鑿工事記念碑となっている。

三一一 所在地 大字塩出道（上塩出）

部落中央県道沿、

三叉路に碑が建立されてある。基礎

切石積（高一・二

米）台石三段（下

巾一・五、厚〇・

二、巾一・〇、



厚〇・三五（上塩出迫と刻みあり）、上巾〇・六三、厚〇・四二米）で碑石は、自然石で道路開通記念碑と銘がある。沿革については、字体小さく、浅く、読み取りが困難のため省略、台石に

当時 村長 岩下久男 助役 古路木 一

発起人（村会議員） 山中説眞 大久保常太郎 綾 虎男

山中幾匡 佐藤健喜 山中 登

世話人 佐竹督量

と銘あり。

三一四 所在地 大字塩出迫 (下塩出)

県道沿い、部落中央右側に碑が建立してあり、碑文に次のように記されてある。

「碑文」

道路開通記念碑

地方文化ノ進展ハ多アルト雖モ、農山村ニ於テハ、一ニ交通網ノ完備ニ俟サル可ラズ、当部落ノ最モ、重要ナル路線ハ、県道鞍岡・高千穂線、並ニ、大迫・塩出線ニシテ、該路線ノ改修ノ議、明治末期ニ起リ尔来、県直営ノ方法、高森町外ニ町村道路組合方法等、各種手段ヲ講ジ改修機運ノ速成ニ務メ来リシモ幾多ノ支障ニヨリ、昭和七年ニ至ルモ其ノ機、至ラザリシガ、昭和八年農村振興ノ一端トシテ、土木事業ヲ企画セラレ、本線其ノ指定ヲ受ケタリ、然ルニ、本線改修予定計画ハ、大字菅尾地内、通稱、野黒ヨリ牛ヶ山ヲ経テ、上塩出ニ通セシムル予定セルヲ聞キ及ビタルヲ以テ、此ノ期ニ於テ、当部落ヲ通過ノ方法ヲ講セシガ永遠ニ文化ノ恩恵ヲ浴シ能ハズ重大危機ニ遭遇シタルヲ以テ、部落民一致協力其ノ目的ノ達成ニ務メタルニ、熱意遂ニ容レラレ、多年ノ宿望初メテ成就セルモノナリ、大迫・

塩出線モ、昭和十一年遂ニ、村民各位ノ同情ニ頼リ改修完成ヲ見タルモノナリ、本道改修ノ速成ニ格段ノ努力ヲ拂イ精神的、物質的ニ多大ノ功績アル、吉田虎喜氏工事改修ノ實際ニ対シ多大ノ苦心ヲナシタル、工藤恵次郎氏、中村乙ノ十氏ノ努力ノ跡、本事業ノ円満ナル進捗ヲ計リタル 中村繁明氏ニ、眞原栄三郎氏ニ、眞原市次氏、中村秀ノ十氏、中村熊彦氏、並ニ部落民及関係者各位ニ、深甚ナル敬意ト感謝ノ意ヲ表スルモノナリ。

当時 村長 岩下 久男

助役兼土木主任 古路木 一

部落道委員 吉田 虎光

村会議員 工藤恵次郎

兼区長 中村乙ノ十

区長代理 眞原栄二郎

前区長 眞原 市次

中村秀ノ十

中村 繁明

中村 熊彦

碑は、基礎切石積(高一・〇五)台石三段(下中一・三〇、

厚〇・一七、中中〇・九二、厚〇・三三、上中〇・六四、厚〇・

三三米)の上に自然石(下中〇・三、中中〇・八二、高一・

八米)の碑である。

三一五 所在地 大字米迫(米山)

米山部落入口

三叉路に、三線の道路を改修した記念として、

道路三線記念碑が建立されている。



碑文

一、昭和二年三月竣工 米山く菅尾線

村 長 甲斐 広保

助 役 岩下 久男

村会議員 興梶 末太

区 長 佐渡原万平

同 興梶 辰熊

一、昭和八年三月竣工 米山く大迫線

村 長 岩下 久男

助 役 古路木 一

村会議員 興梶 末太

区 長 興梶 辰熊

一、昭和二十九年五月 米山く大久保線

村 長 山中 説眞

助 役 大久保春俊

収入役 今村 親雄

勸業主任 佐藤 幸孝

請負者 藤本唯雄 と記されてある。

基礎割石積(巾〇・九、高〇・七米) 台石切石(巾〇・四八、厚〇・三米) 碑石(巾〇・二七、高〇・九〇米)

三一六 所在地 大字今(滝下)

役場前より町道を約五百米程下ると、峽が見え、三叉路より右側下方に橋梁が見える。

本橋架設の六料上下流周辺は、「蘇陽峽」と云う天下の名勝地である。当時、此の蘇陽峽に完全なる橋梁がなく、木造橋のため、増水如に、再三流失していた。此の河川、五ヶ瀬川は遠く宮崎県五ヶ瀬町鞍岡の官山に源を発し、延岡市迄実に一〇六料に及び、太平洋に注いでいる。この周辺は、風光明媚にして、その清流さは他の比でないが、一度豪雨により増水となれば、濁流となり氾濫し、尊い人命さえ失う現況であった。昭和二十

六年のテラ台風に豪雨増水により、又も流失されたため、国庫補助の援助を受けて、ようやく昭和三十年三月二十五日着工、初めて鉄筋コンクリートの永久橋として、同年七月二十九日完成し、以来産業、文化、観光面に多大の恩恵を受けて現在に至っている。

この橋梁の復旧工事に当っては、当時旧馬見原町と旧菅尾村との境界のため、両町村の共同負担として地元負担金を出資し、災害復旧工事として完成したものである。

特に本橋梁の特殊性は、高欄がないことであり、これは大増水時を考慮しての設計にて、増水の時は流水が越水し、橋梁自体の抵抗を少なくするもので「床盤橋」とも云われている。設計者は当時、県阿蘇事務所農地課長 日永治雄技師によるものである。

総工事費 金一〇一八千円

(国庫補助 六・五割 地元負担 三・五割)

「碑文」

滝下橋梁災害復旧工事記念碑

馬見原町長 工藤 保蔵

助役 斗高 俊治

収入役 本田 末熊

議長 本田 清隆

副議長 山本 正綱

駐在員 坂本 定

農業委員 坂本 武光

前議員 坂本 政行

経済課長 栗屋 励

菅尾村長 山中 説眞

助役 大久保春俊

収入役 今村 親雄

議長 田中 進

副議長 田中案山子

地元議員 藤屋 末義

駐在員 藤屋 義武

農業委員 興梠 幸森

土木主任 佐藤 幸孝

昭和三十年七月竣工

請負者 藤本建設 藤本唯雄

石工 上村栄二

と記されてある。

碑石 基礎(巾〇・五、厚〇・三五米) 碑(〇・二八角、

高一・〇八米)の切石の碑である。

三一七 所在地 大字二瀬本（丸小野）

町道丸小野線沿いに、道路改修記念の碑が建立されてある。

基礎石積（下巾一・五、上巾〇・九五、高一・〇米）台石切石二段（下台巾一・一六、厚〇・二三米、上巾〇・八、厚〇・二九米）碑石自然石（巾一・〇、高一・〇米）の碑で、碑石正面に、道路改修記念 小屋迫 一書とあり、台石に町長片岡正行 助役興梶護久 収入役今村親雄 議長本田清隆 議員森田成美 課長工藤義久、台石右側に、昭和三十八年一月 柏建設 設計 後藤義雄、左側に請負人 信竹組 柏建設、台石に関係者十一名の氏名が刻まれてある。

三一八 所在地 大字大見口

畜産公社前、三叉路に記念碑が建立されてある。基礎コンクリート（巾一・五、厚〇・二米）中下（巾一・〇三、厚〇・七米）中部（巾〇・九七、高〇・四九米）台石二段、下台石（巾一・〇六、厚〇・一二米）上台（巾〇・七、厚〇・二四米）の上に碑石（巾〇・五七、高一・四四、厚〇・一三米）があり、清和・高森線改修記念碑と銘がある。

碑文

当県道清和高森線ハ、加藤清正公時代ヨリ、産業道路トシテ高森、日向方面ニ通ズル、唯一ノ幹線道路デアッタガ地形ノ起伏

甚シク改修極テ困難ノタメ未改修県道トシテ取残サレテイタ昭

和二十五年頃ヨリ旧柏村（現蘇陽町）町議会ハ地域住民多年ノ要望ニ應ヘ、県議会国会議員ノ方々へ本線ノ改良促進ヲ訴ヘ其ノ熱意ト重要性ガ認めラレ単県事業トシテ着手ノ運ビトナッタ 延長九杆ニ及ビ多額ノ事業費ヲ要シ永ク歲月ヲ経テ地域住民待望ノ内、遂ニ昭和五十七年十二月改良舗装ノ完成ヲ見タコノ完 成ヲ見ル迄ニハ、穴見重雄翁ノ、三十余年ニ亘ルタユマヌ努力 ト熱意ハ基ヨリ地元民ノ協力ト犠牲奉仕ノ賜モノデ有ルコノ完 成ニヨリ沿線資源ノ開発ト地域住民ノ生活ト文化ノ向上及ビ経 済発展ニ大キク寄与スルモノデ有ル。

六、水 道

三一九 所在地 大字長崎（甲長崎）

部落内（藤川商店前）に、甲長崎上水道記念碑が建立されてある。昭和三十六年二月、工費五〇萬円、組合員十二名の氏名が記されてある。施工者 長谷野官蔵、石工 山下 明と銘がある。（碑切石 台二段自然石 下切石）

三二〇 所在地 大字長崎（甲長崎）

町道右側に、上水道記念碑が建立されてある。基礎（高〇・七二）台石三段（下巾一・〇六、厚〇・一三、中巾〇・七三、

厚〇・二四、上巾〇・五五、厚〇・三一米）碑は自然石の碑である。昭和三十三年三月の施行で、工費百四拾五万円、当時の組合員十五名の氏名と、施工者 長谷野官蔵、石工 上川井野 山下竜彦、題字 本田清隆と銘あり。

三二一 所在地 大字方ヶ野

部落のお堂右側に、水道増設記念碑（高〇・七三、巾〇・三二）台石三段、上部自然石（巾〇・五、厚〇・二五）中部切石（巾〇・五二、厚〇・三二）下段切石（巾〇・七〇、厚〇・一一）台玉石コンクリート（高〇・五五、巾一・一〇米）が建立してある。

碑文

昭和五十三年ノ異状湧水ニ依リ既設ノ水源ニテハ不足ヲ生ジ組合員協議ノ上、役場ヨリ補助ヲ受ケ上笹尾水源ニ水利関係者ノ了解ヲ得テ組合員総力ノ上、竣工通水ニ至ル

総工事費 一、〇〇九千円也

組合長 堀 正則

副組合長 佐藤兼次

會計 倉岡良一

書記 藤嶋政満

組合員 外七名

三二二 所在地 大字神の前  
面の原東側に、自然石（高さ一・〇、台石三段一・七九米）の、水道竣工記念碑が建立されてある。

碑文

当神前部落は、標高六百米余ノ高地ニアリ、戸数二十数戸、人口二百余ノ集団部落農家ヲ形勢シテオリ水田ニ恵レズ、畑作ヲ主体トシタ農業ヲ経営シ始ド家庭経済ハ豊カデナク、上ニ水田ノ水不足ハ元ヨリ当部落ニハ井戸及湧水ハ一ヶ所モナク、山上ヨリ流レル川水ヲ唯一ノ飲料水トシテ使用シテイタ、此ノ流水モ秋ヨリ冬ニカケテハ殆ド枯渴シ五百米余モアル処カラ、水汲ミニ労力ヲ費シテ人手不足又ハ老人ダケノ家庭ニオイテハ使用水ニモ不足スル状態ニテ之ニ要スル労力ハ漠大ナルモノガアツタ、且又川水ト言ツテモ道路端ヲ流レルモノデアリ汚物等ノ流入等アリ極メテ非衛生的デ毎年数名ノ伝染病患者モ出ル有様デアツタ、前述ノ通りノ状況ニ有リ、我々ハ此ノ際、万難ヲ排シテモ簡易水道ヲ布設シ、飲料水ナリトモ立派ナ住ミヨイ村ヲ造リタイト部落民学ツテ熱烈ナル要望ヲ馬見原町当局並ニ議會ニ陳情シ、町公営事業デ布設シタモノデアアル、茲ニ此ノ設工ヲ記念シ永久ニ記スモノデアアル 受益者一同 と銘記しあり。

建設工事費 一、六二九千円

内訳 国庫補助 二九六、七五〇円

県費 〃 一四八、三七五円

町支出金 四一、八七五円

起債 七〇〇、〇〇〇円

受益者負担金 四四二、〇〇〇円

夫役労務 三八〇人

工事施行業者 昭和水道株式会社

関係者

町長 工藤保蔵 助役 斗高俊治

収入役 本田末熊 経済課長 栗屋 励

担当書記 栗屋 守 総務課長 松村 励

普及技師 小崎孝行

建設委員 議長 本田清隆

〃 増田輝清、増永 勇、栗屋保人

部落選出部落委員

枝尾留雄、栗屋 集、栗屋四郎

後藤一男、奥村一総

部落外寄附金者 省略

石工 矢部町上川井野

三代目石工 山下 学

昭和三十三年五月建之

三二三 所在地 大字白石

町道、神の前線（通称、白石原附近）左に入り、登り上った右側の栗園に、碑が建立されてある。

碑石に、大野上水道記念碑 昭和三十七年十二月二十八日竣工と銘あり、裏面に銅板にて、組合員氏名（白石十九名・大野十三名・土戸十八名）が記されてある。別に碑文はない。

基礎ブロック積（下巾一・〇五、上巾〇・九、高一・〇米）

台石切石二段

（下石巾一・〇、

厚〇・一六、上石

巾〇・七二、厚〇・

三二米）

碑は、自然石で

高一・〇、下巾〇・

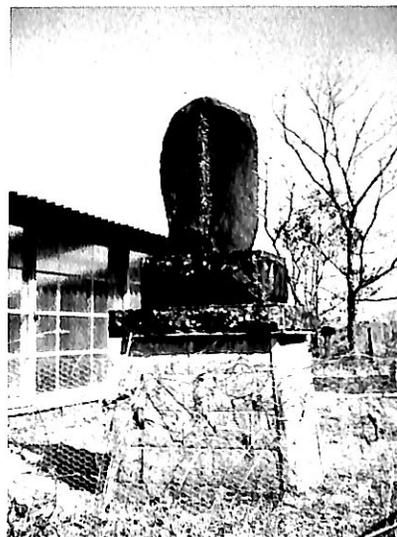
四五、中巾〇・五八米である。

三三四 所在地 大字今

今村観音堂庭に、今地区水道竣工記念碑がある。碑文に、次のように記されてある。

「碑文」

今地区水道竣工記念碑



この水道は、昭和四十年十二月区民一同協議なしたる処、多  
 年来の要望せし事業で、全員異議無く賛意を得て、建設委員会  
 を設立し、具体的準備に着手す、水源池は、今滝下、三望峽に  
 湧き出する清水を利用することに決し、水源池、配水池、ポン  
 プ室用地等の用地関係者のご協力を賜り、補助事業として推進  
 方を町に依頼して、事業認可を受け、昭和四十一年八月十五日  
 入札に附し、直に着工せり、この間全員が協力一致し、幾多の  
 困難を克服し、同年十一月、目度度く竣工を見たものである。

ここに、この事業を永久に記念するため、この碑を建立せり

- 昭和四十三年一月 今 水道組合
- 組合長 今村 弘行
  - 副組合長 田上 勝
  - 委員 白鷹 透
  - 〃 今村 捨志
  - 〃 松村 励
  - 〃 今村 徹
  - 監事 田上 惟雄
  - 〃 興梠 暎延
  - 會計 田上 憲一

総工事費 四、四一〇千円

竣工日 昭和四十一年十一月三十日

用地提供者 今村 敏  
 ポンプ室 林 虎彦

碑石 基礎（下巾一・四、上巾一・一五、高一・一三米、玉  
 混）

台石（巾〇・七五、厚〇・四米）碑（巾〇・三七、高一・四  
 米）の切石の碑である。

三三五 所在地 大字今（滝下）

役場前より町道を約四百米程下ると、左側に水道記念碑が建  
 立されてある。

本地域は、比較的水源に乏しく、枯水期には、飲料水にも支  
 障があり、各地区如に小規模の簡易水道の施設状況であった。  
 昭和五十四年広域水道施設として、事業に着手、本水源池所有  
 者、今村敏氏より買収がまとまり、旧菅尾地域全域（今米山・  
 塩出除く）及柳井原地区迄の給水事業が完備され、給水上の憂  
 いが解消した。

「碑文」

水道記念碑

竣工年月日 昭和五十四年十二月二十八日

町長 片岡 正行

設計 有限会社水開発コンサルタント

施工 昭和水道土木株式会社

総事業費 一億六千七七六萬四千円也

給水人口 六四〇名

計画水量 一八六・七立方米

給水管延長 一五・六八一米

と記されてあり

碑は、基礎(巾一・六三、高〇・四三米) 台石三段(下巾一・

八三、厚〇・一四米) 中台(巾一・二二、厚〇・二三米) 上台

(巾〇・四三、厚〇・二八米) 碑石(巾〇・九一、高〇・六一、

厚〇・二四米)

三二六 所在地 大字花上(中神働)

花上分校手前約五十米右側に、水道通水記念の碑が建っている。

碑文

中神働地区ハ、昭和四十一年頃カラ、干魃ガ続キ、水ノ使用

増加ト共ニ、水不足トナリ学校給食用水ニモ事欠キ、衛生上重

大危機ニ至ツタ、故ニ地区民ハ、役場ノ指導ヲ受ケ、水源池ヲ

求メテ、昭和四十二年十二月二十二日工事ニ着手シ、昭和四十

三年四月二十五日工事ヲ完了シタ

総工事費 百五拾萬円也

工事施工ハ地区民負担 延四三一名

当時人夫賃 九百円也

寄附金者 内田鷄鶴 二万円

中神働婦人会 二万円

水源提供者 後藤 勇幸

町長 片岡 正行

議長 森田 成美

議員 後藤 松壽

〃 小崎 惟光

建設課長 立田 猛

設計者 後藤 義雄

建設委員長 大住 茂

會計 大住 強

地区班長 後藤今朝則

建設委員 大原今朝茂

外十名

記念碑建立者

責任者 嶋村美智男

〃 稻永 親則

外十二名

碑石は、基礎(巾一・一五、高〇・七米) 台石二段(下巾一・

二五米、上巾〇・八二米、厚〇・三六米）碑石（巾〇・五、高一・六米）

三二七 所在地 大字高辻（前）

町道右側に水道事業完成の記念碑

が、建立されてあ

る。基礎石積で（高

〇・八二、横一・

〇米、台石横〇・

九八 厚〇・二五

の上に栗石（巾〇・六五米）で、上に三角形の自然石（高一・

八五 巾〇・三二米）正面に水道記念碑 昭和四十三年三月建

設。

昭和三十五年一月起工功労者、木実 廣とあり、台石に高辻

水道組合員氏名、組合長木実 廣、副組合長佐藤 泉外三十五

名の氏名があり。監事 興梶義彦・佐藤幸春・会計 後藤末人・

木実初好・興梶光雄・後藤国雄・理事 興梶末久・姫野今朝義・

寄附者 佐藤俊光・水源池は大字伊勢 佐藤孝一氏より提供と

銘あり。



三二八 所在地 大字長谷（稻生）

小学校下、旧国道沿に水道記念碑が建立されてある。基礎（巾

一・五二、厚〇・二二米） 台石（巾一・二八〜一・一六、高〇・

八七米ブロック積）上に台石（高〇・六六、巾一・二二、〇・

六八、〇・四五米の三段） 碑高（〇・七、巾〇・二七米） 全高

二・四三米

長谷・稻生、西水道組合碑文

昭和三十三年十二月十四日、先輩佐藤熊八氏ノ発案ニヨリ突如、

私共二十戸稻生西水道組合ヲ結成シ、ソノ水源ヲ目細、工藤静

雄氏、所有地ニ求メ、同氏ノ快諾ヲ得、組合全員ハ、数十万円

ノ巨費ヲ投シ延数百人ノ日夜懸命ノ努力ニヨリ、コノ大工事ヲ

完成シ、無限ニ湧出スル飲料水ヲ見ルニ至ツタ、数年ノ才月ハ

スギ、昭和三十八年一月十三日飲料水ノ不足ニナヤメル隣村、

倉木山、目細、一部长谷校ノ切ナル要望ニヨリ一本化シタ、長

谷水道組合トシ水源モ、新ニ、町有八十谷ニ、モトメ今日ニ至

ツタ、当時ノ組合員ノ労苦ヲ永久ニ記念スルタメコノ碑ヲ建設

ス

発起人 佐藤熊八外二十三名の氏名がある。

三二九 所在地 大字長谷（稻生）

後藤 泉氏入口の所に、稻生東水道組合記念碑が建立されて

ある。基礎（巾二・〇〇一・四、高一・二米）台石（巾一・〇、厚〇・二五米）・碑石（巾〇・七五、高一・四五、厚〇・一五米）共に自然石の碑である。

#### 碑文

本組合ハ昭和三十三年佐藤惟光氏ヲ組合長トシ通称イゴ谷ヨリ、機械ニテ水ヲ揚ゲ、飲料ニ使用シタガ、昭和五十五年一月二十五日、工藤一氏所有ノ山林ヨリノ湧水ヲ、金十萬ニテ買イ受ケ同年二月十三日通水シタ

昭和五十五年二月建之

組合長 工藤弘文 外十名の氏名あり

施工 波野村 井上石材店

稻生東水道組合

土地提供者 後藤勝男

碑石表面には、水道記念碑 後藤強己書とあり。

三三〇 所在地 大字長谷（稻生）

小学校入口左側に、水道記念碑が建立されてある。基礎石積（高一・二三、巾〇・八七米）台石二段（高〇・五八、巾下一・一九、上〇・六九米）の上に自然石（高一・〇、巾〇・六二、厚〇・四五米）の碑で、

総工費 金貳百八拾万円

施工 昭和三十九年一月十六日

担当者 栗屋 守

町長 片岡正行、助役 興梶護久、収入役 今村親雄、議員

玉目鉄雄・工藤 泉

会長 本川吉光、副会長 春日 協

役員 山村喜久夫、春日欽男、工藤 開、工藤吉猶

組合員 穴見近喜、外十名の銘あり。

三三一 所在地 大字大見口

部落内県道左側に、列んで自然石の碑が建立されてある。表面に、水路竣工記念碑 昭和四十二年十二月建設

基礎石積で（下巾一・三、高一・〇米）台石二段で下石（巾〇・九二、厚〇・二四米）上石（巾〇・七、厚〇・三三米）の上に（高一・〇、巾〇・五五、厚〇・三米）の自然石の碑である。

#### 碑文

コノ事業ハ飲料水ト開田ノ二ツノ目的デ水利組合員 栄次、万八、万八ノ三名ヲ当初約五反歩ノ開田ヲナシ遂次増反ヲ図リ灌水ノ不足ノタメ大減収ヲ見ルコトモアリ、昭和三十四年米ノ増収目的デ、小団地開発事業ニテ、水路改修ヲ行ウコトヲ、秀雄ハ組合員ニハカリ町ノ指導ノモトニ、コンクリート三方張りニテ水路ヲ新設百二十万円ニテ工事完成シタ、コレヨリ漏水ガ減

シ各人増反ヲナシニ町ニ反ノ開田ヲナシタ、遂次増反ニテ再度水不足ヲ生スル事態トナツタ、明治四十年上ゲ部落ハ大戸、標高七百二十米ノ高原地デ水利ノ便悪ク飲料水モ不足スルコトアリ時ノ奈須栄次、穴見万八、奈須万八ノ三氏相図リ、高入地ヨリ飲料水ヲ引クコトヲ計画シ、コレオ完成シタルモ、火山灰ト、千五百米ニ及ブ、距離ノタメ漏水多ク、冬期ハ不足シ、再々改良ナスモ十分デナイママデ至ツタ、昭和三十四年、重雄ハコレヲ痛感シ、町費二割、柏官行財源一割助成デ工事ヲナスコトヲ計リ、全員賛成ノ上、町ノ指導ニ基ツキ、ビニールパイプヲ布設シ事業費二十五万円デ完成シタ、然ルニ昭和四十二年ハ、七十年振ノ大干魃ノ年トナリ当地区ノ水田ハ、植付不能ノ状態トナリ非常ニ憂慮サレタ、幸ニモ、国県ハ干魃ヲ重クトリアゲテ之ニ対スル助成ガ行ハレルコトトナリ、重雄ハ、明治四十三年頃、先祖ガ、字積前一、〇〇一番地ヨリ灌漑用トシテ水路ノ計画実施シタガ六杆ニ及ブ、長距離ト種々困難ナ条件ノタメ中止ノ止ムナキニ至ツタ、重雄ハ事業ノ再起ハコノトキバカリ、先祖ノ五十余年前苦心シタ水路デアリ、将来ノタメ国県ノ補助ヲ仰ギ実施スベク、組合員ニ再三再四協議シタガ一名ノ反対ノタメ全員賛成ハ得ナカッタガ、此ノ期ヲ逃セバ将来ニ悔ヲ残スシ又祖先ノ苦勞ニ対シテモ茲ニ是非実現行スベキト、時男、重男ノ二名ハ、町ノ指導ノモトニ実施シタ。ビニールパイプ(口

径百十四ミリ) 六杆ニ布設、経費二百万円ニテ先祖ガ計画シタ六十年来ノ事業ヲ見事ニ完成シ、以来、水利ガ安定シ、増収サレタ、コレヲ永遠ニ記念スベク、本碑ヲ建設シタ所以デアル。

昭和四十二年十二月建之

发起人 奈須 時男

穴見 重雄

協力者五名 後援者六名の銘あり。

三三二 所在地 大字二津留

平木孝一氏宅、入口右側に、碑が建立されてある。水道記念

碑 昭和三十一年正月 水源提供者百枝 工藤 厚 と銘あり。

裏面に碑文あるが、読みとれない。

台石(巾〇・六五、厚〇・一五米)の上に、自然石(巾〇・

六五、高〇・八、厚〇・一米)

三三三 所在地 大字柳

町道右側に、碑が建立されてある。

水道記念碑 柳水道組合建設 昭和三十六年二月二十五日

と銘あり。

基礎(玉混下巾一・〇五、高〇・五七米)台石二段(下は切

石巾〇・九七、厚〇・二五米)上に自然石(巾一・〇、厚〇・